

自立した主権者 をめざして

Vol.47 ネット利用における情報リテラシー
の成熟度と民主主義

KEYPOINT

- あなたは社会的な課題について日ごろ考えていますか？
- また、考えていることについてどんな活動をしていますか？

SUMMARY

情報リテラシーの成熟度は民主主義の質に直結します。リテラシーが高い市民は誤情報を見極め、多様な意見を尊重できますが、低い場合は分断や不信感を招きます。現代日本ではSNS上のデマ拡散が深刻で、教育現場のリテラシー向上と社会全体の支援が求められています。

お知らせ

(12月1日発行)1面論文について、構成や流れや受け止め方等をコメントする場をYouTubeチャンネルで配信しています。毎月配信しますのでニュースと併せてご視聴ください。



デマが招く市民の混乱と民主主義へのリスク

情報リテラシーが高い市民は、フェイクニュースやプロパガンダを見極め、正確な情報に基づいた意思決定を行うことができます。この能力は選挙や政策決定において特に重要です。例えば、2016年のアメリカ大統領選挙では、SNSを通じた誤情報が広く拡散し、多くの有権者の投票行動に影響を与えたとされています。

2024年の兵庫県知事選挙では、現職の齋藤元彦氏が再選を果たしましたが、選挙戦中にはSNS上での誹謗中傷やデマの拡散が問題視されました。

特に、齋藤氏に対するパワハラ疑惑や不信任決議に関する情報が錯綜し、有権者の混乱を招きました。このような状況下で、情報リテラシーの成熟度が市民の意思決定に与える影響が浮き彫りとなりました。

情報リテラシーが高い市民は、SNS上の情報の真偽を見極め、偏った情報に惑わされずに投票行動を行うことができます。一方、リテラシーが低い場合、デマや誤情報に影響されやすくなり、民主主義の健全な機能に支障をきたす可能性があります。この選挙では、SNS上での情報戦が激化し、

市民の情報リテラシーの重要性が再認識されました。

さらに、SNSのアルゴリズムによるエコーチェンバー現象が、多様な意見の理解を妨げ、社会の分断を深めるリスクも指摘されています。情報リテラシー教育の強化や、市民自身が多様な情報源にアクセスし、批判的思考を養うことが求められています。

この事例は、情報リテラシーの成熟度が民主主義に与える影響を考える上で、重要な教訓を提供しているのです。

市民参加の質と量を左右する リテラシーの成熟度

情報リテラシーの成熟度は、多様な意見を理解し、議論を深める能力に直結します。リテラシーが高い市民は、自らの偏見を克服し、異なる視点を尊重することができます。これにより、民主主義における議論の質が向上し、社会全体の合意形成がスムーズに進む可能性があります。一方で、リテラシーが低い場合、インターネットのアルゴリズムによるエコーチェンバー現象やフィルターバブルが強まり、自分と異なる意見に触れる機会が減少します。その結果、社会的な分断が深まり、対話を通じた問題解決が困難になります。

情報リテラシーは、市民参加の質と量にも影響を与えます。リテラシーが高い市民は、政策や選挙への関心を高め、積極的に政治に参加する傾向があります。例えば、香港の民主化運動では、SNSを活用して情報を共有し、迅速な意思決定や大規模なデモの実現が可能になりました。また、情報を適切に活用することで、参加の質が高まり、建設的な議論が促進されます。しかし、リテラシーが低い場合、

無責任な発言やデマの拡散が助長される可能性があります。さらに、誤情報による不信感が市民の政治参加を抑制し、民主主義の活力が低下するリスクもあります。

また、アルゴリズムやプライバシー問題を理解する能力も重要です。情報リテラシーが高い市民は、自身のデータがどのように利用されるかを理解し、プライバシー保護に積極的に関与します。これにより、民主主義的な監視と規制が強化され、個人の権利が守られる可能性があります。例えば、欧州連合（EU）の一般データ保護規則（GDPR）は、プライバシー問題に対する市民の意識向上と規制の実現を促しました。しかし、リテラシーが不足している場合、市民はプライバシー侵害や監視社会のリスクに気づかず、政府や企業の過剰な権力集中を許容してしまう可能性があります。このような状況では、民主主義が危機に直面する可能性があります。

社会全体で取り組むリテラシー向上の重要性

上記では情報リテラシーの成熟度によって起こりうる民主主義の在り様について、リテラシーが高い場合と低い場合を例に挙げて伝えています。情報リテラシーの低さがもたらすリスクは現代日本にも当てはまる部分が多いと言えます。特に SNS 上の誹謗中傷やデマの拡散、エコーチェンバーと分断の深化、市民の政治参加の低下と

いう点では、日本の現状と結びつきを感じます。

情報リテラシーが低い状況は、誤情報の影響を受けやすくし、社会の分断や政治的不安定を引き起こすリスクを高めます。一方で、リテラシー教育の充実や、正確な情報を提供するメディアの責任が重要です。現代日本においても、市民一人ひとりが情報の真偽を見極め、多様な意見に耳を傾ける能力を養うことが、健全な民主主義の維持に不可欠だといえるのです。

しかし残念ながら、情報リテラシー向上の鍵となる教育の現場では、それを担う教員自身のリテラシー不足が課題となっています。教員が情報リテラシーを教えるためには、まず自身が高いリテラシーを持つ必要があると同時に、子供たちに対しても年 1 回程度課外授業的に行われているような啓発講座ではなく、学校の正式なカリキュラムに組み込むべきです。

また、教員だけでなく、保護者や地域社会もネットリテラシーの重要性を理解し、子どもたちを支える必要があります。社会全体でリテラシー向上を支える体制を築くことで、より健全で包摂的な民主主義の実現が可能になるのです。

〈機関紙「日本再生」No.545 の内容〉

「裏金政治に NO」の民意を政治不信から責任の民主化へ ● 3 面/コラム/一灯照隅 ● 4-8 面/囲む会/アフリカと人権問題/坂井真紀子・東京外国語大学教授 ● 9-12 面/学習ノート/税と社会保障

一緒に
考えてほしいこと

・あなたはネットの情報をどのように判断していますか？

【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所：埼玉県越谷市大里 226-1 白川ひでつぐ事務所

担当：吉田理子

ganbarou.r.a.saitama@gmail.com

がんばろう、日本！HP 埼玉読者会 note



がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。